GENERAL INFORMATION

総合案内

ホールアース＝ひとつの地球

一人ひとりが
「人・自然・地域が共生する暮らし」の実践を通じて
感謝の気持ちと誇りをもって生きている

それが、ホールアースが実現したい社会のあり方です。

- 誰もが自然・地域の一員であることを自覚し、それぞれの立場で行動している。
- 地域の生物多様性が、維持・回復に向かっている。
- 地域で多様な生業が成り立ち、定住・交流人口が増え、文化が価値あるものとして継承されている。

これらを目標に掲げ、企業・行政・NPO・市民など様々なセクターの皆さまと、
協働の渦を生み出していきます。

「自然体験」から あらゆる繋がりへ

動物体験から自然体験、そして様々な仲間との協働へ。
ホールアース自然学校の活動は、時代の流れと共に、これからも変化し続けていきます。

	1970's	1971	1982	1983	1987	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
社会の流れ	公害教育・自然保護教育が取り組まれるようになる	環境庁発足	●任天堂ファミリーコンピュータが発売開始 ●東京ディズニーランド開園		自然教育や環境教育に携わる人たちの交流の場として第1回「清里フォーラム」開催		大学入試センター試験開始		リオデジャネイロにて「地球サミット」開催 企業の社会的責任が謳われる			●阪神・淡路大震災が発生 ●地下鉄サリン事件が発生		地球温暖化防止京都会議が開催		特定非営利活動促進法（NPO法）制定		●アメリカ同時多発テロ事件が発生 ●環境庁が環境省へ組織改編	総合的な学習の時間全面実施
ホールアース自然学校の歩み			●静岡県富士宮市（旧芝川町大鹿窪）にて「動物農場」創設 ●動物体験と自然体験のプログラムがスタート	子どもを対象とした遊牧民キャンプと学校団体向けの自然体験教室がスタート	家畜動物とのふれあいの場づくりとして「移動牧場」プログラムをスタート	普段着の探究心をテーマにした自然体験プログラム「日曜探険隊」がスタート			「有限会社WENS動物農場」として法人化		学校団体向け自然体験教室の参加者が94校・1万3千人を超え、全国1位となる	●神戸市東灘区の東灘小学校にボランティアセンターを設置 72日間に渡って断続的にスタッフを派遣 ●団体名称を「ホールアース自然学校」に改称	学校団体向け自然体験教室が大幅に増加し参加者が2万5千人を超える		●通年型の指導者養成プログラムとして自然学校講座（四季コース）がスタート ●新事務所オープン、旧芝川町下柚野に移転 ●沖縄県名護市に「沖縄校（現がじゅまる自然学校）」開設 ●プログラム参加費の一部を環境保全に活用する「環境負担金制度」を導入	書籍『自然語で話そう～ホールアース自然学校の12ヶ月』が小学館より発刊	公設民営の自然学校第1号として環境省「田貫湖ふれあい自然塾」がオープン 常駐スタッフの派遣がスタート		NPO法人ホールアース研究所を設立 富士山本校と沖縄校に事務所を設置

1982

「動物農場」としてスタート

家畜動物の魅力に触れて自然界への理解を深めてもらおうと、家畜動物と共にある暮らしをおくりながら、動物体験・自然体験のプログラムを始めました。これがホールアース自然学校の原点です。

1995

阪神・淡路大震災が教えてくれた新たな役割

震災発生4日後の1月21日から、最も被害が大きかったエリアのひとつ「東灘小学校」に入り、応援活動を展開しました。自然学校の持つ様々なノウハウが、ボランティアセンターの運営や避難所での生活支援などに役立つことを、身を持って知りました。

1998

初の分校を沖縄に開設

沖縄での教育旅行に自然体験を取り入れたいという旅行会社や地元の皆さまの熱い想いにお応えするべく、多様な自然が色濃く残るやんばるの地、沖縄県名護市に初の分校を開設しました。

自然学校という社会運動

わたしたちは「環境教育」というカタチで次世代の社会につながる生き方・暮らし方の提案を続けています

ホールアース自然学校は、「家畜動物とのかかわり」と「自然体験」の場・機会を提供する動物農場として、古い民家を根城に歩み始めました。

昔、里の農家の庭先には、山羊や鶏がいて野菜くずを食べ、出たフンで田畑の肥やしをつくり、食べ物を作っていました。小さいけれど、完璧な循環があり、太陽や雨の恵みに感謝しながら、大きな自然のひとつの歯車として生きていました。それが、私たちが求める豊かな日本型の自然観です。

自然は、目の前だけでなく、その先の広く大きな自然へ拡がり、私たちの心に深い畏敬の念を与え、生命体としての地球への関心につながりました。生かされ活かしていくことの豊かさを伝え、互いの恵みに感謝する心を伝えること。それが自然学校に与えられた課題なのだと考えています。

ホールアース自然学校は、大切な基本を守りながら、社会が必要としている事業を自然学校の立場で取り組んでいく、社会運動体です。

多種多様な技能と関心を有する仲間が、自然学校という舞台で自分を活かし、他者を生かす夢を育んでいます。

私たちの財産である職員と共に、様々な課題に取り組む「人と人」「人と自然」を紡いでいきたいと思います。

ホールアース自然学校 代表
広瀬麗子（あんまー）

2003
- 富士山周辺でアウトドア活動を展開する11団体と共に「富士山自然体験活動推進協議会（F-CONE）」を設立

2004
- 新潟県中越地震が発生
- ●新潟県川口町にボランティアセンターを設置 57日間に渡って断続的にスタッフを派遣
- ●富士山青木ヶ原樹海等エコツアーガイドラインが施行

2005
- 自然の叡智をテーマに愛知万博（愛・地球博）が開催
- ●森・人・地域を育てる10年間のプロジェクトとして「ろうきん森の学校」がスタート
- ●万博史上初の市民参画の場「地球市民村」に出展

2006
- 住友林業株式会社との協働により富士宮市内の小学生に対する環境学習プログラム「まなびの森」プロジェクトがスタート

2007
- アル・ゴア米元副大統領と気候変動に関する政府間パネルがノーベル平和賞を受賞
- 持続可能な暮らし方を提案するビジターセンターとして新潟県柏崎市に「柏崎・夢の森公園」がオープンし管理運営業務を受託

2008
- 北海道洞爺湖サミットが開催 国際的な温暖化対策が焦点となる
- 着地型観光の推進を目指し「ホールアース体験交流企画」として第3種旅行業に登録

2009
- 食・農・暮らし・循環をテーマに生活協同組合パルシステム静岡との協働による体験プログラムの提供スタート

2010
- 名古屋市にて生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催
- 創業者の広瀬敏通の引退に伴い広瀬麗子が新代表に就任

2011
- 東日本大震災が発生
- ●福島県いわき市の湯ノ岳山荘を拠点にした救援活動を展開
- ●都市と農村を繋ぎ直すことをテーマに農業生産法人ホールアース農場を設立

2012
- 環境教育等促進法が全面施行
- 福島県矢吹町に「福島校」を開設（2014年に湖南町に移転）

2013
- 富士山が世界文化遺産に登録

2014
- 27年ぶりの新たな国立公園として「慶良間諸島国立公園」が指定
- 組織マネジメントの改編に伴いNPO法人ホールアース研究所の代表理事に山崎宏が就任

愛・地球博のパビリオンに出展

万博史上初めてNPO・NGOが参画した愛・地球博「地球市民村」。ホールアース自然学校も開幕直後の1ヶ月間、「自然語で遊ぼう！」をテーマに、人間が昆虫サイズに小さくなった目線の参加型ブースを出展しました。

食育・木育の活動拠点に

耕作放棄地。放置された竹林。日の入らないスギ林。日本の里山文化を支えてきた田んぼや森の荒廃が進んでいます。里に拠点を置く自然学校として、有機・無農薬栽培の農業や竹林整備・人工林間伐など、農林業を真摯に取り組み始めています。

人・自然・地域が共生する暮らしへ

自然学校の先生は、自然です。
ダイナミックな大自然、生きものたちのオドロキの生態、先人たちの生活の知恵。
あらゆるところに、未来への学びが散りばめられています。
自然学校の職員は、そんな先生たちの声なき声をわかりやすく伝えるインタープリター。
今日もどこかで、多様な活動が繰り広げられています。

自然体験プログラムによる環境教育の推進

01

つくりものではない ホンモノの自然とのふれあいが、生きるチカラや 心を育む。

自然体験が乏しいあらゆる世代へ

ホールアース自然学校が活動をスタートしたのは1982年。家庭用ゲーム機が普及し始め、子どもたちの遊びのスタイルが屋外から屋内へと大きく変化し始めた時代でした。あれから30年以上が経ち、子どもだけでなく親の世代にも、自然体験が乏しい人が増えています。

子どもにも大人にも、大自然の中で思いっきり遊ぶ機会を提供したい。自然と共に生きる日本ならではの知恵を見直したい。そんな想いを胸に、子どもや親子を対象とした「遊牧民キャンプ」や、週末の「アウトドア体験」、地域を巡る「エコツアー」を、富士山麓や沖縄・福島などで実施しています。

「楽しかった!」で終わらない体験を

私たちの自然体験は、トレーニングを重ねたプロのインタープリター（自然案内人）が、目には見えない自然の魅力や物語をわかりやすく楽しく紹介し、「人間も自然の一部なんだ」という感覚、自然への畏敬の念を育むことを大切にしています。

そして、その学びや気づきを日常生活に持ち帰り、新しい一歩を踏み出すことを応援しています。

行政・企業そして市民の皆さまと共に

自然体験は、環境行政や教育行政に留まる話ではありません。子育て支援や高齢者福祉、農林漁業の6次産業化や地域活性化といった、日本社会が抱える課題に対する解答のひとつと私たちは考えています。

また、多くの企業が、CSR・CSV活動の一環として、環境教育をさらに進めていこうとする私たちの取り組みを応援してくださっています。

これからも、行政・企業、そして市民の皆さまと共に、ほんものの自然体験をより多くの人に提供していきます。

富士山冒険学校

家畜と共に暮らす「遊牧民キャンプ」。数あるラインナップの中で最も長いのが、13泊14日に及ぶ「富士山冒険学校」です。

富士山の大自然をフィールドに、カヌー・川遊び・洞窟探険・徹夜ハイク・登山と、内容は超盛りだくさん。何をするかは子どもたちと一緒に決めるという、自主性・主体性を大切にしたプログラムです。

2週間で、ひとまわりもふたまわりも大きくたくましく成長する姿に、スタッフも親もびっくり！

迎えに行った時の生き生きしたたくましい顔が忘れられません。自然の中たくさんのお友達とすてきな体験をしてきたのだなぁ、と嬉しくなりました。また、今までどんなに頑張っても食べられなかったトマトを食べたと聞いて、びっくりしました。動物の糞の肥料でとてもおいしいんだと言っていました。（小3・男子の保護者）

実施プログラム例

- 遊牧民親子キャンプ
- 富士登山
- やんばる清流リバートレッキング
- リゾートホテルでの夏季限定営業
- 自然学校講座四季コース

実績

子どもキャンプ・親子キャンプ／年間実施数 35 回
年間参加者数 600 名

アウトドア体験・エコツアー／年間実施数 60 回
年間参加者数 700 名

02 プロのインタープリターによる、学習効果の高い教育旅行を。

教育旅行プログラムによる体験学習の推進

富士山麓よりはじまった教育旅行向けの自然体験

1983年、富士山麓に広がる青木ヶ原樹海を舞台に、教育旅行向けの自然体験プログラムがスタートしました。樹海の原生林を歩き、自然のままの溶岩洞窟を探険するというダイナミックな内容で多くの児童・生徒、そして教員の方々に満足いただき、今では年間の参加者が3万人を超えました。現在、富士山麓や箱根・沖縄などで、延べ200種類の体験プログラムを実施しています。

プロによる学習効果の高いプログラムを

私たちの教育旅行プログラムは、「プロのインタープリター（自然案内人）が案内する」ことを最大の特徴としています。

それは「教育旅行」である以上、そこにはしっかりとした学習効果が必要であり、ガイドの質が学習効果の質を左右させると確信しているからです。

このため、インタープリターは最大で年間500時間を超えるトレーニングを積み、フィールドの把握や伝える技術だけでなく、安全管理やファシリテーションスキルなどについても研鑽を重ねています。

体験活動で高まる自己肯定感

国立青少年教育振興機構による「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成24年度調査）では、「体験活動の経験が多い青少年ほど、今の自分や自分らしさを認めるという自己肯定感が高まっている」ことが指摘されています。

また欧米では、注意欠陥や多動性障害の原因のひとつとして「自然欠乏症候群」が指摘されるようになりました。

私たちは、自然体験が情操教育にもたらす大きな効果を日々実感しながら、一度にたくさんの児童・生徒にメッセージを伝えることができる教育旅行という分野で、挑戦を続けていきます。

平安時代に起きた富士山の大噴火。大量の溶岩が流れ出し、すべてが飲み込まれました。それから1150年。
今では、動植物の生命あふれる森へと驚異的なスピードで復活しつつある、それが青木ケ原樹海です。
そこには、自然のままの状態が残る溶岩洞窟があちこちに点在。子どもたちは、探険家気分でヘルメットをかぶり、懐中電灯の灯りだけを頼りに奥へ奥へと進んで行きます。
そう、これがほんものの暗闇だ！

洞窟樹海探険

プログラムの始まる前まではヘルメットやヘッドランプを装着させられ、これから一体何が始まるんだろう…と緊張気味の生徒たち。そんな緊張をインストラクターの方々が元気と明るさで一気に吹き飛ばしてくれました。みんなで入った洞窟内でヘッドランプの光を一斉に消してみたりする中で、普段は見過ごしてしまいがちな本来の自然の姿や偉大さをわかりやすく楽しく教えてくれました。（40代男性・教員）

実施プログラム例

- 洞窟樹海探険
- 宝永火口トレッキング
- スポーツチームビルディング
- 羽地内海シーカヤック体験
- バードコール教室
- ロープワーク教室

実績

年間教育旅行プログラム 参加者数	30,000 名
年間教育旅行プログラム 参加団体数	250 校

自然が先生。

研修プログラムによる人材育成の推進

03 プロフェッショナルな、自然案内人を育む。

インタープリターのノウハウによる学びの場づくり

インタープリターとしてのノウハウを30年以上に渡って蓄積してきたホールアース自然学校では、多くの企業や行政の皆さまから、研修のご依頼を頂戴しています。

事例1　企業研修

本格的な自然体験とふりかえりのワークショップを組み合わせた「体験型研修」は、社内ではなかなか気づかない「その人本来のチカラ」を発見する機会として、新入社員のチームビルディングやコミュニケーション、中堅社員のマネジメントスキルの向上等に活用されています。

事例2　ガイド養成

座学だけでなく実体験を通した総合的なカリキュラムによって、エコツアーガイドや環境学習の指導員を全国で養成しています。

近年では、環境教育やエコツーリズムを推進したいという海外からの研修員も受け入れ、日本の自然学校の学びを世界に発信しています。

事例3　教員研修

環境教育の日常化を目指す私たちにとって、児童・生徒とじっくり向き合う学校教育は最高の現場だと感じています。

教育現場に今以上に体験学習の手法が普及し、環境教育が当たり前の社会となるよう、教職員の初任者研修や、教員免許更新講習のお手伝いを続けています。

仲間を育て続けることが私たちの使命

日本の自然学校は、それぞれの団体がまだ黎明期だった1980年代から、「隠している場合じゃない」を合言葉に、自分たちのノウハウを積極的に公開し、普及し、仲間を育て続けています。

このプロセスこそ、自然学校業界が「日本のソーシャルビジネスの先駆け」と言われる由縁です。

全国の自然学校を代表する立場として、私たちはこれからも、持続可能な社会を一緒に目指す仲間づくりを続けていきます。

3～4人のチームに分かれて実施する制限時間6～9時間での対抗戦レース。およそ50～60㎢のエリア内に散らばっているポイントを探し出し、それぞれの指令等に従いながら、得点を獲得します。体力はもちろん、チーム内での戦略やコミュニケーションが勝敗を左右するため、自分や仲間の新たな可能性に気づく絶好の機会となります。

身体ともに追い込まれる中で、同期の絆が強まる一方、自分自身を見つめ直すとても有意義な時間になりました。これまでの研修では見られなかった一面にたくさん出会えました！
（30代男性・人事部）

実施プログラム例

- 新入社員研修（チームビルディング）
- エコツーリズム研修
- 環境学習指導員養成講座
- ジオパークガイド講座
- 環境学校講座

実績

年間研修参加者数　250名
年間研修実施数　20事業

04 いのちを食べるということを、もっと考える。

食農プログラムによる食育の推進

自然をいただく。

農村が抱える課題に当事者として取り組む

ホールアース自然学校は、2011年11月に農業生産法人『ホールアース農場』を設立しました。増え続ける耕作放棄の有効活用や就農人口の減少といった、日本の農村が直面している問題に対して「当事者」として具体的な行動を起こすことを目指しています。水稲・露地野菜を中心として、無農薬・無化学肥料により栽培しています。

自然学校型の農業

単なる農業生産者ではなく「自然学校型」農業であることにこだわっています。

環境教育分野における長年の活動実績を活かした食農体験活動プログラムの企画・実施を通じて、子どもから大人までが、楽しく「食農」に触れる機会を提供しています。

また、里山に息づく伝統的な暮らしや日本型自然観に触れる体験を通じて、都市と農村を繋ぎ直す活動を展開しています。

田植えや稲刈り、アイガモとの触れ合いといった「農業プログラム」、味噌作りや天然酵母のパンづくりなどの「食プログラム」を定期的に実施。

キャンプ等の食事には、ホールアース農場が生産する新鮮な米や野菜をふんだんに使用しています。

近年では、産直活動にこだわる企業と協働で、一般・組合員向けの企画づくりにも取り組んでいます。

日本型自然観の原点へ

地震や台風といった自然災害が多い日本において、私たちの祖先は農耕民族として自然と折り合いをつけながら暮らしてきました。農がもたらす食べ物や農を取り巻く環境に真剣に向き合うことが、日本型自然観の源に近づくものと信じています。

春には田んぼでどろんこになり、食べられる山野草をさがし、カエルやおたまじゃくしを見つけます。夏には川遊びや流しそうめん、セミの羽化を観察したり、ホタルに出会えることもあります。秋には稲刈りをして、鳴く虫を探し、夜にはお月見。冬にはほっぺたを真っ赤にしながら真っ白な富士山をながめ、餅つきや味噌づくりを楽しみます。
毎年くりかえす中で、「四季」という日本人の自然感や暮らしの知恵が自然と子どもたちの身体に浸透していきます。

後日、牛肉を切っていると「このお肉も命をいただいているの？」と。そこから会話ができて嬉しくおもいました。これを機会に、私こそが命をいただくことから目を逸らさずに向き合い、大切にしていかねばと思いました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。（30代女性・5歳男児の母）

実施プログラム例

- 里山のようちえん
- おいしい里山物語
- エコライフセミナー
- 田植え体験
- いのちを食べる
- 自然学校講座生き方暮らし方コース

実績

年間プログラム参加者数	700名
年間実施プログラム数	25プログラム

里山事業による里地里山の保全

05 竹・木・ケモノ 自然を活かして、里山を守る。

富士の麓で里山を思う

ホールアース自然学校は、富士山を仰ぎ見る里山に本拠地を構えています。

石積みで作られた棚田が広がる美しい田園地帯ですが、ふと振り返ると、かつて広葉樹に覆われていた山は竹林に侵食され、放置された人工林がうす暗い空間をつくり出し、鹿や猪による獣害が深刻問題となっています。人と自然の関係が変化したことによって引き起こされるこうした社会課題は、日本各地に広がっています。

これらの課題に共通しているのは、いかに里地里山の利用を促進できるかという点。ホールアース自然学校は、里山に活動の基盤を置くものとして、課題の解決に全力で取り組んでいます。

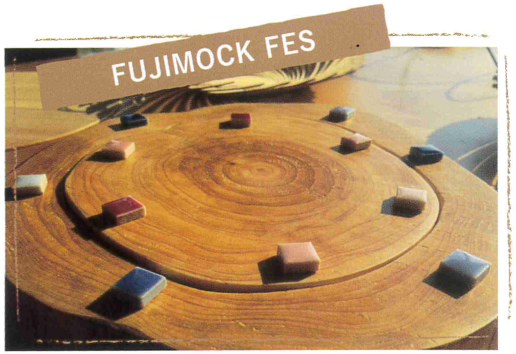
自然に触れて自然を活かす

竹の分野では、ボランティアの参加者と共に定期的に伐採を行い、竹籠や竹行灯など竹を使った日用品をつくり、筍の味覚を堪能。木の分野では、自分たちでも人工林の伐採を行いながら、木こり&ものづくり工房との協働による新しいワークショップを展開したり、間伐材の集積基地を設置。獣の分野では、自ら鹿や猪を捕獲し、ジビエ料理や鹿革クラフトを実践したり、担い手を育てる講習会を行っています。

最近では、企業研修のプログラムに竹・木・獣の活動を盛り込むことも増えてきました。森林の有効活用と運動を組み合わせた新しい健康増進プログラムも広がっています。

さらに柏崎・夢の森公園では、市民ボランティアと一緒に間伐材をペレットや薪として販売するなど、人・モノ・エネルギーが循環する新たな仕組みの提案を続けています。

私たちは多様なセクターとの化学反応を生み出しながら、持続可能な里地里山を次世代につなげていきたいと考えています。



富士山麓（FUJI）の間伐材で、アイデアをかたちにする（MOCK-UP）フェスティバル（FES）。生活と森の新しい関係の構築を目指しています。森に入り、素材の循環を考え、木こり体験、フィールドワーク、加工スキル向上などを通じ、約半年かけてアイデアをカタチにしていきます。都会で暮らす人、木こり、エンジニア、プログラマー、デザイナーなどジャンルを横断し世代を越えて様々な人が集います。

木こりや自然ガイドと出会い、森や木の見方が大きく変わりました。ものづくり・デザインというキーワードから、木と暮らしをつなげるお手伝いができそうです。（30代・男性）

実施プログラム例

- 里山つなぎ隊
- 狩猟サミット
- 富士山！カラダの学校
- FUJIMOCK FES
- 鹿革クラフトとジビエ料理

実績

年間プログラム参加者数　600名
年間実施プログラム数　30プログラム

06 人が集う「場」をつくり、自然と人をつなぐ。

ハンズオン手法とインタープリテーションの連動による施設運営

環境教育の裾野を全国に広げる

環境教育の裾野をさらに広げるため、ホールアース自然学校では2000年より施設運営のお手伝いを続けています。

ひとつ目は、富士箱根伊豆国立公園の中にある田貫湖ふれあい自然塾（静岡県富士宮市）。環境省が設立した、公設民営型の自然学校第1号です。身近な自然に目を向けるきっかけづくりから、自然と暮らしのつながりを知って行動していくまでの体験を、様々な自然体験プログラムや実際に触わり動かしながら学べる展示解説を通して、専門のスタッフが来館者に提供しています。

ふたつ目は、新潟県柏崎市の里山公園、柏崎・夢の森公園。2015年度より、指定管理者として管理運営を行っています。

自然との共生を考える場を提供していくことを基本コンセプトに、市民協働による里山の復元や環境学校の展開、持続可能な暮らしに向けた新たな循環の仕組みの提案などを行っています。

［田貫湖ふれあい自然塾］実施プログラム例

- 富士山洞窟探険
- 富士山湧水沢遊び
- たぬきっこ森のようちえん
- ムササビ＆ホタルウォッチング
- 子ども＆親子キャンプ

実績

- 主催プログラム約 7,700 名
  （無料 5,200 名、有料 2,500 名）
- 団体プログラム参加者およそ 2,700 名
- 年間来館者数およそ 10 万名

［柏崎・夢の森公園］実施プログラム例

- 自然農と暮らしの講座
- ゆめの森のようちえん
- 人間関係トレーニング
- 薪ボイラーの手作り足湯
- 里山自然紀行

実績

- 主催プログラム約 5,000 名
  （無料 3,000 名、有料 2,000 名）
- 団体プログラム約 7,000 名
- 年間来館者数およそ 8 万名

07 アウトドア技術や臨機応変な現場力で、非常時に役立つ存在に。

自然学校のノウハウによる被災地支援

被災地支援に活きる自然体験で培ったさまざまな力

私たちが被災地支援・復興支援に取り組む契機となったのは、1995年の阪神淡路大震災でした。自然体験プログラムで培ったアウトドア技術や臨機応変な現場力・コミュニケーション力などが、非常時の時こそ役に立つことを実感し、以来、災害支援を組織のミッションのひとつに掲げています。

被災地支援の現場は、時期によってニーズが異なるため、多様な支援のあり方を実践して参りました。

災害発生から3日間程度の初動期には、緊急救援物資の手配や現地ボランティアセンターの立ち上げ支援、続く対応期には、炊き出しや子どもの遊び場づくり・ヒアリング調査などのボランティアセンター運営支援、さらに継続期には、地場産業の支援や防災教育などの復興支援を行っています。

実績

- 阪神淡路大震災
  ［期間］1995年1月18日～3月31日（72日間）
  延べ 300 人日
- スマトラ沖地震
  ［期間］2005年3月～2006年4月（5回の渡航・79日間）
  延べ 60 人日
- 新潟県中越地震
  ［期間］2004年10月29日～12月24日（57日間）
  延べ 200 人日
- 東日本大震災
  ［期間］活動期間 2011年3月12日～継続中（福島校の設立へ）

環境

イオン	イオンチアーズクラブ全国大会
石垣市商工会	石垣版カーボンオフセットツアー調査業務
石垣市商工会	環境負荷低減国民運動支援ビジネス事業専門家派遣
うるま市地域雇用創出推進協議会	うるま市元気シゴトプロジェクト自然体験活動リーダー養成事業
沖縄県	おきなわ環境交流集会企画運営業務
沖縄県	ヤンバルの森の歴史と物語調査事業
環境省	田貫湖ふれあい自然塾自然体験ハウス運営等業務
環境省	環境教育リーダー研修基礎講座企画・調整等業務
環境省	エコインストラクター人材育成研修事業
環境省	モニタリングサイト1000里地調査
環境省	地域ぐるみの捕獲推進モデル事業
静岡県	環境学習指導員総合学習講座
静岡県	伊豆・富士地域森林鑑定団運営業務委託
静岡県	棚田・里地保全活動支援業務
JICA	中南米地域持続的開発のための環境教育トレーニング
JICA	自然体験を通した環境教育コース
住友林業	富士山まなびの森
セブン銀行	ボノロンの森環境活動
那覇市	那覇市ゼロエミッションモデル事業
新潟県	新潟エコスタイルワークショップ企画運営
日本生命	ニッセイ森の探検隊
幡多広域観光協議会	着地型観光モニターツアーアドバイザー
パルシステム静岡	おいしい里山物語／里山のようちえん／里山いきもの倶楽部
三井物産	社有林の森林環境教育プログラム
労働金庫連合会	ろうきん森の学校

観光

粟国村	島あしび体験プログラム研修
粟国村	自然体験ガイド術講座
うるま市地域雇用創出推進協議会	うるま市元気シゴトプロジェクト観光体験分野人材育成コーディネート業務
沖縄県	スポーツ・ツーリズム推進事業（地域素材を生かしたスポーツイベント「ロゲイニング」）
沖縄県	沖縄離島体験交流促進事業
川根本町	奥大井・南アルプスエコツーリズムプログラム企画モデル作成業務
川根本町	奥大井・南アルプス地域エコツアーガイド担い手養成講座業務
川根本町	エコツーリズム推進事業業務委託
環境省	エコツーリズムガイド養成研修事業
神戸市	六甲摩耶エコツアープログラム開発及びエコツアーガイド育成業務
佐世保市	佐世保エコツーリズム研修会
座間味村	美ら島づくり事業
JTB GMT	通訳案内士専門性研修
静岡県	ニューツーリズム創出・流通促進事業実証事業
JICA	集団／地域別エコツーリズム研修
長崎県	農林業を核とした地域活性化サポート事業に係る専門家による「体験プログラム」アドバイス業務
名護市	名護をまるごと体感プログラム創出事業
兵庫県	六甲摩耶誘客促進事業

農林業

経済産業省	農商工連携等促進人材創出事業
佐賀県	ふるさと水と土指導員研修業務
静岡県	森づくりグループ活動支援推進事業
静岡県	企業の森づくり活動参加促進カーボンオフセット活用調査業務
静岡県	森の力再生事業県民ワークショップ開催業務
長崎県	農林業を核とした地域活性化サポート事業に係る専門家による「体験プログラム」アドバイス業務
農林水産省	農村活性化人材育成派遣支援モデル事業
富士宮市	重点雇用創出事業森林有効活用推進業務
林野庁	効果的な森林体験活動の企画に向けた調査事業業務

教育

岡山県	青少年教育センター関谷学校事業運営業務
沖縄県	おきなわ環境交流集会企画運営業務
環境省	田貫湖ふれあい自然塾自然体験ハウス運営等業務
環境省	環境教育リーダー研修基礎講座企画・調整等業務
静岡県	緑の少年団交流集会開催事業
静岡県総合教育センター	公立小中学校 / 高等学校初任者研修における環境教育研修
福島大学	福島県教員免許更新講習
文部科学省	青少年体験活動総合プラン事業

国際

沖縄県	アジア青年の家　コーディネート業務
沖縄県	沖縄県海外技術研修員受入事業
環境省	太平洋島こども環境サミット
JICA	中南米地域持続的開発のための環境教育トレーニング
JICA	自然体験を通した環境教育コース
JICA	地域における中小企業振興コース
日中市民社会ネットワーク	北京富平学校 LEAD 来日研修プログラム

福祉・健康

奄美市	奄美「ふるさと雇用再生特別基金事業」アドバイス・コーディネート業務
うるま市地域雇用創出推進協議会	うるま市元気シゴトプロジェクト観光体験分野人材育成コーディネート業務
静岡県	環境学習指導員総合学習講座
静岡県	森づくりグループ活動支援推進事業
静岡県	地方の元気再生推進調査委託事業
富士宮市	重点雇用創出事業森林有効活用推進業務（富士山！カラダの学校）

助成金

トヨタ環境活動助成プログラム	富士山西麓の在来作物を調査し、農家・市民の手により継承するプロジェクト
日本財団	帆かけサバニを地域資源として活用した名護湾地域活性化プロジェクト
PanasonicNPO サポートファンド	自然学校を「非日常」で終わらせないコミュニケーション深化事業
三井物産環境基金	科学と環境教育連携プロジェクト

地域に根ざした「自然体験」を提供

ホールアース自然学校は、株式会社・NPO 法人・農業生産法人の 3 つの法人格を有する、ハイブリッド型の自然学校です。これは、活動領域の拡大に伴い、クライアントや事業パートナーが多様になる中、自らの可能性を最適化させようと挑戦を続けた結果です。2018 年現在、静岡・沖縄・福島・新潟の 4 県に 6 つの拠点を有し、それぞれの地域の皆さまと共に、歩みを進めています。

株式会社 ホールアース

設立　1987 年 1 月（1982 年動物農場として創設）
代表　広瀬 麗子
連絡先　tel. 0544-66-0152　fax. 0544-67-0567　mail info@wens.gr.jp

特定非営利活動法人（NPO 法人）ホールアース研究所

設立　2002 年 3 月
代表　山崎　宏
連絡先　tel. 0544-66-0790　fax. 0544-67-0567　mail npo@wens.gr.jp

農業生産法人 株式会社ホールアース農場

設立　2011 年 11 月
代表　平野 達也
連絡先　tel. 0544-66-0152　fax. 0544-67-0567　mail farm@wens.gr.jp

アクセス（ホールアース自然学校 富士山本校）

- 東海道新幹線「新富士駅」より 車で 40 分
- JR 身延線・富士急高速バス「富士宮駅」より 車で 15 分
- 新東名高速「新富士 IC」より 車で 30 分

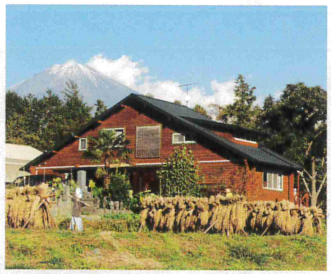
保有資格

株式会社ホールアースは、着地型観光を進めていくため、旅行業に登録しています。

業務範囲　国内旅行
登録番号　静岡県知事登録旅行業第 3-559 号
名称　株式会社ホールアース（ホールアース体験交流企画）

NPO 法人ホールアース研究所は、各省庁における一般競争（指名競争）の入札参加資格を保有しています。

資格の種類　役務の提供等
等級　D
営業品目　調査・研究、その他



ホールアース自然学校 富士山本校

こどもキャンプや教育旅行向け自然体験などの環境教育プログラム、エコツーリズムや環境活動の人材育成、勇気農業や里山保全活動などを実践している。

〒419-0305　静岡県富士宮市下柚野 165
[株式会社 ホールアース]
tel./fax.　0544-66-0152 / 0544-67-0567
[NPO 法人 ホールアース研究所]
tel./fax.　0544-66-0790 / 0544-67-0567
http://wens.gr.jp

沖縄校（がじゅまる自然学校）

体験型観光・環境教育プログラムの実施や開発、社会人の育成、地域の観光推進のための連携・コンサルティング業務を中心に活動している。

〒905-1143　沖縄県名護市真喜屋 845
tel./fax.　0980-58-1852 / 0980-58-1852
http://www.wens.gr.jp/gajumaru

福島校

復興の動きを見つめ、次世代のこどもたちの教育・育成と、多様な主体を巻き込む新たな事業の創出を目的として活動している。

〒963-1633 福島県郡山市湖南町福良字中町 127
[福島校・NPO 法人ホールアース研究所 福島事務所]
tel./fax.　024-983-6411 / 024-983-6722
http://www.wens.gr.jp/fukushima

柏崎・夢の森公園

市民との協働による「里山の復元と創造」をテーマにした柏崎・夢の森公園の指定管理者として、持続可能な暮らしの実現につなる各種体験プログラムの運営や調査・展示業務、市民ボランティアのコーディネート業務まで、多様な活動を行っている。

〒945-1355　新潟県柏崎市軽井川 4544-1
tel./fax.　0257-23-5214 / 0257-23-5113
http://www.yumenomori-park.jp

田貫湖ふれあい自然塾

田貫湖のほとりにある国設（環境省）第 I 号の自然学校の管理運営業務。来館者との密なコミュニケーションや体験プログラム、ハンズオン展示などの独自のノウハウにより、年間 10万人を超える方々にサービスを提供することで、自然とのつながりを感じる社会を目指す。

〒418-0107　静岡県富士宮市佐折 633-14
tel./fax.　0544-54-5410 / 0544-54-6400
http://www.tanuki-ko.gr.jp

富士市立少年自然の家 丸火自然公園

45 年以上の歴史を持つ富士市立少年自然の家の指定管理者として、富士山南麓の溶岩台地に広がる丸火自然公園をメインフィールドとし、新たな喜びを創造する『共育』施設を目指して活動している。

〒417-0801　静岡県富士市大淵 10847-1
tel./fax.　0545-35-1697 / 0545-36-2799
https://www.fuji-marubi.jp

http://wens.gr.jp

ホールアース自然学校 富士山本校　〒419-0305 静岡県富士宮市下柚野 165　tel. 0544-66-0152　fax. 0544-67-0567　mail info@wens.gr.jp

VEGETABLE OIL INK